

授業科目名	ロボット技術活用論		授業形態	講義	
ナンバリング	OT-TE-LE-2	主要授業科目	開講回数	1	単位数 2
配当専攻・年次	作業療法学専攻 2年次 前期		必修・選択	必修	
担当教員名	江里口 優		担当形態	単独	
授業の概要・目的	急速な高齢化が進むなか、高齢者や障害者の日常生活を工学面から支援する「福祉工学」が注目を集めている。これは、失われたり衰えたりした感覚や手足、脳の機能を、機械で補助・代行する工学分野である。人間の機能を助ける工学技術の基礎的な知識を学修するとともに、ロボット等の様々な機器を生活場面における介護や自立支援に活用する方法について学ぶ。				
授業の到達目標	1. 福祉工学技術の基礎を理解することができる。 2. 多くの支援機器(ロボット等)の特徴を理解することができる。 3. 作業療法士として支援機器(ロボット等)を活用することができる。				
卒業認定・学位授与の方針との関連			DP・O③、DP・O④、DP・O⑤		
実務経験のある教員による授業科目					
授業計画	回	授業内容	事前・事後学修		
	1	福祉用具と介護ロボット (講義)	予習はシラバスから関連用語を調べ概要を把握する。(2H) 復習は講義時の配布資料・メモを元に抽象化して捉え、自らの事例への具体化を考える。(2H)		
	2	電源・バッテリー (講義)	予習はシラバスから関連用語を調べ概要を把握する。(2H) 復習は講義時の配布資料・メモを元に抽象化して捉え、自らの事例への具体化を考える。(2H)		
	3	センサー (講義)	予習はシラバスから関連用語を調べ概要を把握する。(2H) 復習は講義時の配布資料・メモを元に抽象化して捉え、自らの事例への具体化を考える。(2H)		
	4	コントローラ/アクチュエータ (講義)	予習はシラバスから関連用語を調べ概要を把握する。(2H) 復習は講義時の配布資料・メモを元に抽象化して捉え、自らの事例への具体化を考える。(2H)		
	5	移乗支援 (講義)	予習はシラバスから関連用語を調べ概要を把握する。(2H) 復習は講義時の配布資料・メモを元に抽象化して捉え、自らの事例への具体化を考える。(2H)		
	6	移動支援 (講義)	予習はシラバスから関連用語を調べ概要を把握する。(2H) 復習は講義時の配布資料・メモを元に抽象化して捉え、自らの事例への具体化を考える。(2H)		
	7	ロボットセラピー実習1 目的・歴史・事例紹介 (講義)	予習はシラバスから関連用語を調べ概要を把握する。(2H) 復習は講義時の配布資料・メモを元にレクリエーションの構想を練る。(2H)		
	8	ロボット操作練習 (実技)	予習はシラバスから関連用語を調べ概要を把握する。(2H) 復習は講義時の配布資料・メモを元にイメージトレーニングを行う。(2H)		
	9	ロボットセラピー実習2 レク計画・役割分担 (実技・グループワーク)	予習はシラバスから関連用語を調べ概要を把握する。(2H) 復習は講義時の配布資料・相談内容を元にイメージトレーニングを行う。(2H)		
	10	ロボットセラピー実習3 司会・操作・介在者体験 (実技・グループワーク)	予習はレク計画を元にトラブル対処を想定しておく。(2H) 復習は改善点を振り返り、今後の取り組みへ活用するべく要点をまとめる。(2H)		
	11	排泄支援 (講義)	予習はシラバスから関連用語を調べ概要を把握する。(2H) 復習は講義時の配布資料・メモを元に抽象化して捉え、自らの事例への具体化を考える。(2H)		
	12	入浴支援 (講義)	予習はシラバスから関連用語を調べ概要を把握する。(2H) 復習は講義時の配布資料・メモを元に抽象化して捉え、自らの事例への具体化を考える。(2H)		
	13	見守り・生活支援 (講義)	予習はシラバスから関連用語を調べ概要を把握する。(2H) 復習は講義時の配布資料・メモを元に抽象化して捉え、自らの事例への具体化を考える。(2H)		
	14	業務支援1 自動化ツール・情報共有事例紹介 (講義)	予習はシラバスから関連用語を調べ概要を把握する。(2H) 復習は講義時の配布資料・メモを元に抽象化して捉え、自らの事例への具体化を考える。(2H)		
15	業務支援2 3Dプリンタ概要 (講義)	予習はシラバスから関連用語を調べ概要を把握する。(2H) 復習は講義時の配布資料・メモを元に抽象化して捉え、自らの事例への具体化を考える。(2H)			
教科書	配布資料				
履修の条件・注意事項	特になし				
参考文献	ウェブサイト「ロボット技術活用論」(https://eriguchiyu.com/robo-tech/)				
成績評価方法	毎回の講義後に提出するコミュニケーションカードの内容(40%)と講義終了後のレポート(60%)で評価する。				
課題のフィードバック	通常なし。課題提出時に希望があった学生に対し、メール等でフィードバックを行う。				
オフィスアワー	講義終了後、コミュニケーションカードにて質問を受け付けし、次回の講義開始時に回答・解説する。				